

佳作 心と心を結ぶ言葉



バトウルジー ビャンバスレン
BAT-ULZII BYAMBASUREN

国籍 モンゴル

職種 介護

実習実施者 社会福祉法人ハインスライフ

監理団体 GTS 協同組合

認知症というのを思い浮かべますか？私は介護技能実習生としてモンゴルから来て3年目に入りました。日本に来る前は認知症について、何も知りませんでした。映画やインターネットで認知症の方を見たくらいです。今働いている施設には、たくさんの認知症のお年寄りがあります。毎日お世話をしてきて、認知症のことが自分自身、少しわかってきました。

私の好きなおばあさんにKさんがいます。Kさんは高齢になって認知症になりました。今のことはすぐ忘れます。しかし、昔のことを質問すると、はっきりと覚えています。Kさんは、こんなことを話してくれました。「私は若いころ中国にいました。中国では漬物を漬けて生活してました。戦争が終わった後で、日本に帰ってきました。」75年も前のことです。私は施設で暮らす80歳、90歳の人たちは、本当に苦労したのだと感じました。Kさんは明るい人です。

入浴の時はいつも「いいあんばい」と感謝の言葉を伝えてくれる、チャーミングなおばあさんです。私は、いつかKさんのような明るくやさしいおばあさんになりたい

と思います。日本のおじいさん、おばあさんたちは、どんな時でも「ありがとうございます」「すみません」という言葉を使います。どんな言葉よりも、心が伝わります。

いつも楽しいお話をして下さるおばあさんがいます。Nさんです。私は手が空くとNさんとお話しします。Nさんに年齢を聞くと29歳といって笑います。自分の年齢の数字を逆にして20代だと冗談を言う人です。入浴介助していて、私が体を洗っていると「3人の子どもを育てたミルクタンクだ」と言うので、二人で大笑いします。Nさんには、日本にはない「ビャンバー」という名前が難しいので「ジャンバー」でいいですよと教えました。Nさんの前で、私は「ジャンバー」です。

認知症の方への対応には秘訣があります。もし、周りに認知症の方がいれば「ゆっくり話して」下さい。何か行動する前には、「声がけ」しましょう。認知症の方がお話ししたい時には、「しっかり聞いて」下さい。認知症といっても、全部忘れているわけではありません。2人の利用者さんに教わりました。「古いことはよく覚えている。」「自分の子どものことはどんな時も忘れない。」

今、介護施設は大へんです。新型コロナウイルスの影響で利用者さんは、家族との面会が一切できません。「家族と会いたい会いたい」という方々ばかりです。いつでも子どもを大切にしてきた高齢者たちですから、会いたい気持ちはずっとずっと強くなるんだと思います。コロナがいなくなれば、家族みんなが施設に来て、直接顔を見て、手と手を握り合えます。心と心を寄せ合えます。早くコロナが退治されて、おじいさん、おばあさんたちが家族に会えることを心から祈っています。